

- WCC機関名 (WCC No)：公益財団法人結核予防会結核研究所 (JPN-38)
- WCC for Research, Reference and Training on Tuberculosis
- 事業名：JICA課題別研修
「SDGs達成に向けたUHC時代における結核制圧」 (以下対策コース)
「UHC時代の結核制圧と薬剤耐性－検査リーダーのための実施訓練を通じた知識と技術の向上－」
(以下ラボコース)

1) 事業の背景と目的

- COVID-19パンデミックにより結核対策が影響を受けた：
 - 結核対策資源 (人的、ラボ等) のCOVID-19への振り分け
 - 移動制限等による患者受診の減少 (診断、治療) 等
- =>結核対策の後退 (患者発見の減少、推定死亡数の増加等)
- WHOと協力し実施している上記研修を、2020年、2021年度は、結核対策へのCOVID-19の影響への対応を重視した内容で実施することとなった。

2) 事業の概要

- COVID-19パンデミックの旅行制限のためオンラインで実施。ラボコースは、実習ができないためマネジメント面を重視した。
- 参加者がCOVID-19対応等で多忙なことを考慮し、研修内容を絞り期間を短縮（両コースとも、2-3週間）して実施した。
- 対策コース： COVID-19の結核対策への影響への対応策、回復のための方策、COVID-19対策にも有用な技術（デジタル技術の活用等）。
- ラボコース： COVID-19パンデミック下における質の高い結核菌検査・検査室管理の実施。
- WHO日太平洋地域事務所の結核/ハンセン氏病担当官による結核対策への影響・対応に関する講義
- 研修参加者（2020-2021年度）：
対策コース： 11国から16名のJICA研修員、その他の7名（2か国）の研修参加者
ラボコース： 9国から16名のJICA研修員、その他の1名（1か国）の研修参加者

<https://www.facebook.com/jicatokyo/posts/5229174773768970> （JICA Tokyo International CenterのFacebook）

3) 今後の予定

今回のパンデミックの経験を踏まえ2022年度の研修では、以下のJICA課題別研修実施を予定されている。

- 健康危機に対応する結核対策－革新的技術を用いた保健システム構築－
- 健康危機における結核制圧と薬剤耐性のための最新診断－実施指導による基礎技術から次世代シーケンス